

21.

胆嚢・胆管・肝原発の胆管細胞癌の粘液の組織化学的観察

杉本 顕 俊（住友病院病理部）

胆嚢・胆管・肝に原発した胆管細胞癌の剖検 22 例（胆嚢 8，総胆管 4，肝 10）の粘液を AB-PAS 反応で観察した。

粘液性腺癌 6 例，乳頭状腺癌 3 例のうち各 1 例に AB $\pm$ ，他の 7 例に AB $\pm$ を示し，後者のうち 4 例に PAS $\pm$ ～ $\pm$ を示した。

管状腺癌 9 例では分化と関係なく AB $\pm$ ～ $\pm$ と一般に弱く，低分化腺癌の 2 例に反って AB $\pm$ を示すものがみられた。

低分化癌 3 例のうち，扁平化生の強い胆嚢癌の 1 例で AB $\pm$ 。他は AB $\pm$ であった。

以上，胆管細胞癌 22 例中，扁平化生の 1 例に陰性を示した以外は，全例に AB 陽性粘液を認め，粘液性腺癌と乳頭状腺癌の大多数に強陽性，他は一般に微弱であったが，低分化の癌細胞にも AB 陽性の滴状物を散見した。前回報告した膵管癌では低分化の癌に AB 陰性が多かったことと対照的である。また PAS 陽性粘液は粘液性腺癌 3 例と乳頭状腺癌 1 例のみに強陽，他は変性産物に微陽性であった。この点も膵管癌の過半数陽性と対照的である。

22.

ヒト胆嚢の粘液組織化学的研究

勝山 努，長瀬克郎，那須 毅
（信州大・医・第二病理）

慢性胆嚢炎にみられる胆嚢粘膜の様々な形態学的変化は，胆嚢癌との関連上重要な意味を持つている。今回の研究で，このような形態学的変化に伴って上皮性粘液にも質及び量的な変化の生ずることが明らかになってきた。

材料は剖検時に灌流固定した正常の胆嚢 2 例と，胆石症その他の診断のもとに外科的に切除された胆嚢 20 例で，染色法としては high iron diamine-Alcian blue 及びコンキナバリリン A パラドックス染色法等を用いた。

正常な胆嚢粘膜は比較的平坦で，粘液腺は胆嚢頸部にのみ認められた。慢性胆嚢炎では，粘膜の乳頭状増殖，杯細胞や時には異型上皮の出現などのほか，特に目立つ所見として粘液腺の著しい増加をあげることができる。組織化学的には，正常の被覆上皮は腺腔に面した胞体に少量のスルフォムチンを含むにすぎないが，乳頭状に増殖した粘膜の被覆上皮では，一般的に粘液の増加を認め，異型上皮においては逆に粘液産生は著しく減少している。新たに形成された粘液腺はパラドックス染色法でⅢ型に属する粘液を含んでおり，その点で胆嚢頸部に正常でも存在する粘液腺に類似している。